

西ブロックミニ研修〈静大学食と高柳記念未来技術創造館〉

7月30日(火)の午前、西ブロック定例会を和地山公園集会場で実施後、炎天下の中、徒歩にて静大浜松キャンパスに向かい、学食で昼食をとり、高柳記念未来技術創造館を見学しました。

キャンパス正門の守衛所で西ブロック 19 名を申請し入場、右側には3年前に建て替えられた電子工学研究所(高柳先生の研究が原点)、左側には高柳先生の銅像とIEEEマイルストーン(電気・情報技術関連の歴史的偉業顕彰)受賞記念碑がありました。昼食は創造館に近い南食堂で、リーズナブルな学食を体験しました。

高柳記念未来技術創造館は南食堂よりもさらに南で南門の東側にあります。2007年にリニューアルされ、主な展示は2階に集中しています。2階入口左手には大きなブラウン管があり、その内部構造まで良く観察できます。奥に入ると自ら円板を手回しして有名な「イ」の字をLEDで表示する実験機があります。南側展示の藤岡コレクション(長野の技術者・藤岡氏寄贈)ではテレビの歴史を一目で見ることができます。ソニーのトリニトロンと有機ELもありました。東側には巨大な8Kプラズマテレビがあり、北側には本研究所卒業生の活躍が展示されていました。その中でもスーパーカミオカンデの光電子増倍管(浜松ホトニクス創業者の堀内平八郎氏、城北図書館にも展示があります)、セイコーのクォーツ腕時計(旧プロジェクトXで紹介)が双璧と思います。久しぶりの科学・工学見学で楽しい時間でした。



「イ」の字から始まるテレビの歴史を学べる展示物

「イ」の字の石碑が市内2カ所にあります。一つは静大工学部の前身である旧浜松高等工業学校の跡地である西部協働センター前、あと一つは旧NHK浜松支局(牛山)前庭です。

私が小学生の時、震災により廃墟となった浜松高等工業学校の校舎と雑草が生い茂る場所で、その廃校舎の南側に裸のブラウン管が数台並べられていました。石をそのブラウン管にぶつくとズボッという音とともに不思議なことにガラスが飛び散ることなく石がブラウン管の中に吸い込まれたことが忘れられませんでした。

後々、大学の学生実験で真空現象を学び、ブラウン管内は真空で大気圧が内部に向かっていていることを知り、子供時代のいたずらのなぞをやっと理解しました。

西ブロック 長田勝久

会員の交流広場

「夜あそび」 in 蔵泉院

「きもだめしやりたいね」

浜北駅や春野町でイベントを仕掛けている加藤仁士さんとの会話から始まった今回の企画。

偶然にも遠州大念仏西ヶ崎組の練習会の話や遠州怪談話に詳しい山城和磨さんの話が重なり、藤枝で放置竹林をなくそうと活動する「ちょもり火工房」さんと呼んで夏休みの平日に開催しました。

告知はインターネットと回覧板のみ。目的は大念仏を地域の人に見てもらい現状を知ってもらうこと。

コロナ禍での練習不足、地域の高齢化、継承者不足などで2022年を最後に大念仏の開催を一時休止していた西ヶ崎組組頭の川合正泰さんは、お寺でイベント活動をしていた私に「大念仏を見てもらう場がほしい」と話されました。

イベント当日、境内に用意した舞台には、武田軍と初盆の灯籠にちなんだ竹灯籠と、犀ヶ崖の「布橋」に見立ててイベント仲間で作った白い布切れのガーランドを飾りました。ほぼ思いつきで用意した舞台で、子供を含む18人が遠州大念仏を披露。着物仲間も手伝ってくれて、西ヶ崎を通じて知り合った方々も遊びに来てくれました。最後は近所の方が電話しながら「見においでよ」って言ってる声が聞けて、うれしかったです。



手作りの舞台上で大念仏を披露

西ヶ崎の大念仏を2年前に見て「最後だよ」っといわれて知ったこと、ボランティアガイドを通じて感じたなくしちゃいけないものを伝えられたと思います。

郷土芸能であること、今も場所や時間さえわかれば見たい人はたくさんいることを知りました。

人数が少ない中で仕事と町内の祭り練習の合間に平日の夜に練習を重ねてくださった西ヶ崎組の皆さん、本当にお疲れ様でした。

中ブロック 久保田絢子

会員の交流広場

静かな城下町「遠州横須賀」

私の育った遠州横須賀（掛川市横須賀）をご紹介します。

横須賀の地は横須賀城の城下町で遠州の南側に位置しています。横須賀城は、家康公家臣の面々が高天神城を武田勝頼から奪還するために築いた城で、家康公の天下統一には重要な城でした。横須賀城には歴史好きの人たちが現在も日々見学に来城しています。



大須賀康高と忠政の墓

地域には横須賀藩に関係した文化財がひっそりと現在も残っています。

撰要寺には初代城主の大須賀康高と康高の孫で榊原康政の嫡男大須賀忠政の壮大な墓を始め本多家、小笠原家等の墓があり遠州の高野山という人もいます。

また、恩高寺には

横須賀城の鯨瓦(しゃちがわら)が3体残っており、台座の部分には城の塀瓦がはめ込まれています。これらの鯨は高さ 1.3mあり国宝犬山城の鯨瓦と同じ大きさです。もう一体は天守台から発掘され掛川市埋蔵文化財センターに保管展示されています。

浄泉寺には久世家一族の墓があります。家康公の陪臣久世広宣は大須賀康高に仕え旗本となり、家督を継いだ長男広当(ひろまさ)は2500石の内、500石を三男広之に与えました。

広之は秀忠、家光の小姓となりその後老中を務め閑宿の城主となりました。

町中にある商家(明治以降も含む)清水邸は江戸時代からの回船問屋で安政地震の後再建された建造物です。池田屋は二階部分が漆喰で覆われた重厚な建物です。他にも山正醤油店、旅館八百甚、山中酒造(大竹省二生家)、深谷醤油店等が現存しています。

なお、お寺は仏様になった方が眠る所ですので静かに少人数で見学を。商家は住居として使われていますので内部見学は不可です。迷惑をかけるようなマナーを守って町中を散策してください。

南ブロック 大石秀男

会員の交流広場

日本百名山の利尻山登山と花の浮島礼文島を訪ねて

昨年は日本最南端の日本百名山の屋久島・宮之浦岳を登頂する旅をしましたが、今年は日本最北端の日本百名山の利尻山(標高:1721m)に登頂しました。利尻山は利尻富士とも呼ばれるコニーデ型の秀峰で『夢の浮島』と称される利尻島の独立峰です。

初日は羽田から稚内まで空路で移動後、稚内からはフェリーで約2時間の船旅を経て利尻島の玄関ペシ岬を見て駕泊(おしどまり)港に到着。

2日目の登山当日は梅雨前線北上の影響を受けて朝から生憎の雨、しかも高度を上げるにつれて風雨共に強くなり、登山口から6時間もかかって登頂した山頂では僅か5分程度しか滞在できないほどの悪天候に見舞われてのハードな登山でした。残念ながら期待していた360度の大展望は得られませんでした。多種の高山植物、特に利尻山でしか見られない固有種のリシリヒナゲシ、ボタンキンバイ、リシリアザミをはじめ多くの花々が出迎えてくれたことがまあよかったというところです。

翌日は『花の浮島』と称される礼文島を訪れました。礼文島は海拔ゼロメートルから高山植物を楽しめる特異な島です。今回は利尻島駕泊港からフェリーで礼文島香深港へ渡って島の南端の桃岩展望台コースをトレッキングしました。



利尻山山頂

コースの元地灯台から先は日本海に面した断崖絶壁沿いに高山植物が咲き乱れていて素晴らしい景観でした。

中でもレブンスユキソウ、レブンキンバイソウ、レブンソウなどの礼文島固有種他、イブキトラノオ、チシマフウロ、エゾエンゴクサなどを楽しめました。沖合には利尻島も眺望できました。

最終日は利尻島からフェリーで稚内へ移動。JR稚内駅には「日本最北端の線路」の Monument と「日本最北端の駅」の標識があり、最果ての旅情に暫し浸ることができました。

滞在中はウニ、カニ、イクラなど新鮮な海産物を賞味できましたが、ここでは駅に隣接された道の駅構内で特産のホタテラーメンを賞味。ホタテがふんだんに盛られており実においしかったです。

利尻島、礼文島の素晴らしい大自然を満喫できた旅でした。

西ブロック 谷 晃

会員の交流広場

江戸時代に生まれた「変化朝顔」

来年の大河ドラマは徳川時代中期の江戸の街が舞台です。江戸に幕府があった260年間は戦争のない平和な時代といわれています。庶民の識字率は70%以上もあり世界でもトップレベルの高さだったようです。この時代の流行は浮世絵・俳諧・歌舞伎・人形浄瑠璃・落語・相撲・花火・和算などあらゆる分野に広がり、鎖国により日本独自の発展をしました。園芸も盛んで、文化文政期(1804~1830)には斑(ふ)入りの葉などの奇品植物が好まれ、普通ではない朝顔「変化朝顔」が生まれます。

朝顔は花卉が5枚で全部くっついている合弁花類です。突然変異で花卉が離れているものを采咲(さいざき)、花卉が重なっているものを牡丹咲と言い、変化朝顔と呼ばれています。どちらも劣性の形質のため種子はできません。遺伝子を持った種を4個蒔くと1個だけ劣性の形質が現われます。残りの3個は兄弟株なのに普通の朝顔です。つまり4分の1の確率です。采咲牡丹となると2つの劣性形質が現れる確率は16分の1になります。しかも遺伝子を持った種子かどうか育ててみないと分からないので、毎年たくさんの種を蒔いてもめったに出会えない。そのため「出物」といわれました。



これが朝顔？ 変化朝顔「采咲牡丹」

メンデルの法則が発表されたのが1865年、その正しさが証明されたのは1900年です。遺伝子のことなど知らない江戸の人々が「とにかく変わった朝顔を作りたい」という思いから手間暇を惜しまず競い合っていくうちに、劣性の秘密を見抜いていたというから驚きです。出物が育つと家が一軒買えるほどの高値で取引されたということで、収入の低い下級武士たちも内職として栽培していたようです。朝顔ですから2カ月ほどしか花を觀賞できないし、種もできないのに高値で買う人がいたとはびっくりです。江戸の「粋」でしょうか。

北ブロック 高羽百代

会員向け研修会

甦る相良の田沼意次と武田流築城城跡を巡る

コロナ禍で中断していましたバス研修旅行をこのたび来年のNHK大河ドラマ登場に合わせ、企画いたしました。

今から230年以上前の江戸中期、相良藩主として現在の牧之原市周辺を治めていたのが幕府側用人で、老中を務めた田沼意次公でした。

今回、田沼意次が築城した幻の名城相良城や相良藩主として整備した湊や街道などのインフラ整備の跡、ゆかりの平田寺などを訪れます。製塩や養蚕などの殖産興業にも力を発揮した名君、田沼意次の偉業と足跡をたどってみましょう。

さらに、武田流築城術が残る藤枝の田中城跡、島田の諏訪原城跡を巡る企画です。奮ってご参加ください！

◆日時：令和6年12月11日(水)

8:00~17:30

◆訪問先：相良城(資料館、城内遺跡)・平田寺 相良塩の道・田沼街道・田中城跡・諏訪原城跡など

※詳細については各ブロックの研修部員から連絡いたします。

研修部長 岩城 豊(南ブロック)

★8月の団体ガイドは、熱中症対策のために休止しています。

はままつ案内人会報 266号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2 (浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地